東京日日新聞號外

明治二十五年三月八日
逓信省認可
明治廿七年十二月十七日

◎第一軍戰鬪後報

敵は決心して來襲せたり

然れども竟ゝ敗退す

（十七日午前七時五十六分在廣島特派員山崎正秀發電）

掲第二三三號を以て左の電報を公示せらる

連山關及び草河城方向は異狀なし

友安大佐い敵を追擊ま て三家子附近ゝ至ゞ又三原少佐は十四日草河口を出發し草河口方向より賽馬集道ゝ出で敵の敗兵を脅ゞ苦なれども未だ其結果の報告を得ず

前衛い十一日二道家子附近に於て豐島葉三將の步兵三千、騎兵四百、砲八門と小戰鬪の後、同地西北の高地を占領し敵の大部は柝木城方向に退却せり然れども櫻樹溝白帥凹溝附近には猶敵の步兵約四千五百、砲六門あり故に明朝主力を以て敵の右側ゞ攻擊運動す

大迫枝隊の狀況は未だ分らず目下大東溝と大孤との間、電信不通の箇處なり

過日來各方向ゝ敵兵增加し今回は決心して我を向ひ來襲せしものゝ如し

然れども鳳凰城方面の敵は各箇に之を擊退するを得ゝゞ御安心ありたし

十五日午後十一時四十分
安東縣　野津中將

◎其二

敗後の敵狀

我將校士卒の死傷

分捕及び敵の死傷

（十七日午前八時四十分在廣島特派員山崎正秀發電）

掲第二三四號を以て左の電報を公示せらる

友安大佐の擊破したる敵の重なるものは賽馬集道と同街道西北山脈とより其一部は吉林街道と賽馬集街道との中間より又找攻擊前に鬚河を渡りたる敵の騎兵五十と步兵白許りは紅家堡子東北方ゝ何れも十四日の夜、四分五裂して逃遁したり捕虜の言ゝ依れば敵の一部は猶草河城の北方に在るものの如し

我戰死兵卒十二名、負傷岡部（克己）淺田（丹治）の二中尉、莊司（都盛）少尉、下士七名、兵卒五十三名

分捕克虜伯山砲二門、同野砲二門、小銃八十五挺、旗七旒、刀十二本、捕虜十六人敵の死者發見したる分白三十九、其他馬雜品若干敵の死者い山間の戰なるが故に發見せざるもの多ゝらん

敵い依將軍の率ゐる黑龍江九營と馬隊ありといふ

十六日午前十一時三十分
野津中將

◎山縣大將の着廣

參營は本日

痩せたれども元氣なり

（十六日午後六時二十五分在廣島特派員山崎正秀發電）

山縣大將は本日午後五時西鄕海軍大臣、兒玉陸軍次官と共に橫濱丸にて宇品へ着、直に上陸、吉川支店にて暫次休憩の後、大本營より送附されたる馬車にて當市に向はれ定めの旅宿平塚町長沼別莊に赴かる

參營は明日（即ち今十七日）なるべし

伊藤總理大臣、土方宮內大臣、樺山海軍軍令部長、川上參謀本部次長、寺內少將、野田陸軍大將、石黑軍醫總監、伊東書記官長等は何れも宇品まで出迎へたり

大將は痩顏更に痩せ白髮長く延びされども元氣至て盛なり

◎第二回軍事公債應募額

東京及び各地方に於て今回の軍事公債に應募した る金額左の如し

總計八千四十万五千七百五十圓

內
一千八百九十五萬五千一百五十圓　最低價格九十五圓以上の申込
六千百四十五萬六百圓　最低價格九十五圓の申込

發行人兼印刷人　阿部庄五郎
編輯人　齋藤武次郎
東京京橋區尾張町壹丁目壹番地
發行所　日報社

0184
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp